

有機農業の原理

前文

「有機農業の原理」は有機農業が成長し発展する上での根本となるものである。それらは有機農業が世界に寄与できることを表明し、世界の全ての農業を改善するためのビジョンを示している。

我々は日々、自らを養ってゆかねばならない。したがって農業は人類にとって最も基本的な活動の一つである。元来、歴史・文化・地域社会の価値は農業に内蔵している。この原理は農業を最も広い意味で捉えており、それには人が食べ物やその他の基本的な物資を生産し、準備し、流通するために土や水を培う方法、植物や動物を育てる方法も含まれている。また、この原理は人々が自然環境と影響し合い関わり合いながら、次世代に残す遺産を形成してゆく事を考慮している。

「有機農業の原理」は多様な面から有機農業運動を喚起するように働く。これはIFOAM（国際有機農業運動連盟）の立場や活動方針、基準の道標であり、世界各地に受け入れられるように設けられている。



有機農業は以下の4つの原理に基づく

健康の原理

生態的原理

公正の原理

配慮の原理

これらの原理はそれぞれに、まず理念を表した声明が示され、次にその説明がなされている。これらの原理は全てが一つのものとして用いられるべきである。これらは行動を喚起するための倫理的な原理として構成されている。

健康の原理

有機農業は、土・植物・動物・人・そして地球の健康を個々別々に分けずには考えられないものと認識し、これを維持し、助長すべきである。



個々の健康や地域全体の健全性は、生態系の健全性とは切り離しては考えられない。健康な土は健康な作物を作り、それらが動物や人の健康を支える。

健康とは、全体のことであり生物システムの完全さである。それは、単に疾病や病気が無い状態ではなく、身体的・精神的・社会的・生態的に満たされた状態が維持されていることである。免疫・回復・再生が健康の鍵である。

有機農業の役割とは、生産・加工・流通・消費のどの過程においても、生態系全体そして土の中の最も小さな生き物から人類に至るまで、個々の健康を維持・助長してゆく事である。有機農業は高品質で栄養価の高い食べものを生産し、予防的健康管理と幸福に寄与することを目指す。この観点から、有機農業では健康を害する危険のある肥料・農薬・動物用薬品・食品添加物の使用は排除されるべきである。

生態的原理

有機農業は、生態系とその循環に基づくものであり、それらと共に働き、学び合い、それらの維持を助けるものであるべきである。



この原理は、生きものの生態系の中に有機農業があることに基づいている。有機農業の生産は生態系の過程と循環を基本とする。滋養と快適さは特定の生活環境の生態系を通じて得られる。例えば、作物ではそれは生きた土であり、家畜(動物)ではそれは農場生態系であり、魚や水産物ではそれは水中環境である。

有機農業や牧畜または野生生物の採取による生産は、自然の循環と生態系バランスに沿ったものでなければならない。これらの循環は普遍的なものであるが、その働きは地域ごとに個性がある。有機的管理とは、各地域の条件・生態系・文化・規模に適応しなければならない。資源を守り環境の質を向上させるために、物資やエネルギーの再利用・リサイクル・適切な管理を促進し、資源の投入を最小限に抑えるべきである。

有機農業はその農業体系を組み立て、生き物の生活環境を作り出し、遺伝子や農の多様性を維持することで生態系バランスが整った状態にすべきである。有機農産物の生産・加工・流通・消費に関わる人々は、景観・気候・生息地・生物多様性・空気・水を含む共有の環境を保護しつつ、それを享受してゆくべきである。

公正の原理

有機農業は、共有環境と生存の機会に関して、公正さを確かなものとする相互関係を構築すべきである。



公正とは、人と人、及び人と他の生きものとの関係のなかで公平・尊重・正義・世界観を共有することによって成り立つ概念である。

この原理は有機農業に関わる人々が、全てのレベルで関係者、すなわち農業者・労働者・加工業者・流通業者・販売者及び消費者の間で、公正さを確保できる方法で人間関係を結ぶべきであることを強調している。有機農業は全ての関係者に良質な生活を提供し、食料主権や貧困撲滅に貢献すべきである。有機農業では良質な食べものとその他の生産物を十分に供給することを目的としている。

この原理は、動物にはその生理に合致し、自然な行動ができ、健全性が保てる条件と機会を与えられるべきことを主張している。

生産と消費に使用される天然資源及び環境資源は、社会的・環境的に公正に管理されなければならない。未来の世代へ信託されなければならない。公正さとは生産・分配・流通のシステムが誰にも開かれており、平等で、そして真の環境コスト・社会コストを説明できることである。

配慮の原理

有機農業は、現世代と次世代の健康・幸福・環境を守るため、予防的かつ責任ある方法で管理されるべきである。



有機農業とは生命あふれるダイナミックな体系であり、その体系は内的及び外的な要求と状態に対応している。有機農業を実践するものは効率を上げ、生産性を向上することができるが、それが健康や幸福を脅かす危険を持つものであってはならない。したがって、新しい技術は評価され、現行の技術は見直される必要がある。農業や生態系に対する理解は不完全であるため、十分な配慮が必要である。

この原理は予防と責任が有機農業における管理・開発・技術選択において重要であることを示している。科学は、有機農業が健康かつ安全で、生態系が健全であることを保証するために必要である。しかしながら、科学的知識だけでは十分ではない。実践経験、蓄積された知識、伝統的でしかもその土地固有の知恵は、時が証明した確かで多様な解決策を提供してくれる。有機農業では、適正な技術を選び、遺伝子組み換え技術のような予測不可能な技術は排除することにより、過大な危険を避けるべきである。選択の決定に際して、その過程は影響を受けるであろう全ての関係者に公開されるべきである。最終決定は、関係者の自主的な参加により、その人達の価値と必要性が反映されたものであるべきである。

This document is a translation of the English document entitled “Principles of Organic Agriculture”, which text was adopted by the IFOAM General assembly in Adelaide in 2005 and is the only official reference for the Principles. IFOAM does not endorse responsibility for the content of this translated version. For any doubt regarding the exact meaning of its content, please refer to the English version.



IFOAM'S MISSION IS LEADING,
UNITING AND ASSISTING THE
ORGANIC MOVEMENT IN ITS FULL
DIVERSITY.

OUR GOAL IS THE WORLDWIDE
ADOPTION OF ECOLOGICALLY,
SOCIALY AND ECONOMICALLY
SOUND SYSTEMS THAT ARE BASED
ON THE PRINCIPLES OF ORGANIC
AGRICULTURE.

IFOAM Head Office

Charles-de-Gaulle-Str. 5
53113 Bonn, Germany

Phone: +49 - 228 - 92650 - 10

Fax: +49 - 228 - 92650 - 99

Email: HeadOffice@ifoam.org

www.ifoam.org